

代議員選挙のご報告

近畿地方会代表幹事 田中 一成

ご存知のとおり、平成23年6月3日に日本リハビリテーション医学会第48回通常総会において決議された公益社団法人への移行に伴い、12月2日、法人代議員選挙が行われました。近畿地方の代議員に選出されました先生方は下記の通りです（敬称略）。

青山 朋樹、阿部 和夫、綾田 裕子、井上 重洋、今井 晋二、逢坂 悟郎、大澤 傑、奥村 元昭、柿木 良介、勝山 真介、加藤 洋、川上 寿一、北村 嘉雄、久保 俊一、幸田 剣、小口 健、小西 英樹、佐浦 隆一、坂井 孝司、柴田 徹、菅 俊光、須貝 文宣、菅本 一臣、住田 幹男、隅谷 政、角谷 直彦、高橋 紀代、武澤 信夫、田島 文博、田中 一成、中馬 孝容、陳 隆明、鉄村 信治、峠 康、道免 和久、富田 恭治、中土 保、中野 恭一、中村 健、野崎 園子、橋本 務、長谷 斉、平林 伸治、福田 寛二、堀井 基行、真多 俊博、三浦 靖史、三橋 尚志、宮井 一郎、宮内 義純、宮崎 博子、村尾 浩、村田 顕也、門 祐輔、矢倉 一、山口 淳（敬称略）

CONTENTS

- ◆ 第6回日本リハビリテーション医学会
専門医会学術集会の報告 1 頁
- ◆ 第6回日本リハビリテーション医学会
専門医会学術集会 代表世話人からのご挨拶 1 頁
- ◆ 代議員選挙のご報告 2 頁
- ◆ リハ医の現場を訪ねて 2・3・4 頁
- ◆ 施設紹介(第11回) 4 頁
- ◆ 第32回日本リハビリテーション医学会
近畿地方会学術集会 会長挨拶 5 頁
- ◆ 第32回近畿地方会開催概要 5 頁
- ◆ 日本リハビリテーション医学会近畿地方会
専門医・認定臨床医生涯教育研修会カレンダー 6 頁
- ◆ 編集後記 6 頁

近畿地方代議員となられた先生方におきましては、日本リハビリテーション医学会を通じて近畿地方におけるリハビリテーション医療を支え、これを取り巻く様々な課題を国の施策に反映して行っていただけることを切に願っております。地方会執行部といたしましても新法人を支え、今後とも会員相互の研鑽を高め、近畿地方会を更に活気あふれた会に発展させるべく精一杯努力する所存でございます。重ねてご支援、ご協力をお願い申し上げます。

リハ医の現場を訪ねて...

大阪府障がい者自立相談支援センター 正岡 悟 先生

当センターは、身体障害者福祉法による身体障害者更生相談所機能と、知的障害者福祉法による知的障害者更生相談所機能を統合し、さらに障がいの地域生活移行支援、身体障害者手帳の発行、療育手帳の発行、発達障がい者や高次脳機能障がい者の支援等の機能を組み込んだ行政機関として平成19年4月に発足しました。

近隣には精神障がい者の支援を行う「大阪府こころの健康総合センター」があり、障害者自立支援法で謳われている3障がいを支援する構成となっています。また、同じ敷地内に立地する「大阪府立急性期・総合医療センター」や「大阪府立障がい者自立センター」とともに障がい者医療・リハビリテーションセンターを形成し、急性期医療との円滑な連携を図りつつ、維持期リハビリテーションを始め、地域での自立生活に向けた訓練や就労への橋渡し等を支援する構成ともなっています（図）。スタッフは医師、看護師、理学療法士、作業療法士、ケースワーカー職、心理職、介護職及び行政職を合わせて50名弱での体制です。この少数で自立支援医療（更生医療）判定と補装具費支給判定で年間約1万件、療育手帳相談・判定等で年間約7千件、身障・療育手帳発行では年間2万6千件を超える数に対応し、また、施設利用調整等のほかホームページに登載しているような事業を複数手がけております。

当センターでリハ医として担っている内容は多様です。例えば巡回・訪問診療では、呼吸器管理下で自宅生活を送られている方、重症心身障がい児施設で長く療養されている方、グループホームやケアホームに入所しながら種々の社会参加をされている方、あるいは入院治療をされている方々のもとを訪れ、心身機能や生活活動・環境等について評価し、適切な更生援護を実施しています。

相談・判定あるいは評価・支援に際しては、障がいの起因となる種々の疾病について、その発症から慢性期にいたるまでの幅広い知識が求められるとともに、日常生活活動を始めとして住宅・環境整備、就労・就学支援に至るまでの評価と支援方法についての知識・経験も必要となります。また何よりも、支援の適用・選択の根拠となる医療や福祉サービスについての理解はもとより、これを根拠付ける各種法令や条例等に精通している必要があります。特に最近では「障害者総合福祉法（仮称）」に向けた福祉関連の法改正等の動きの中、不断の知識習得努力とその実践が不可欠な現場となっています。

（大阪府では、できるだけ「障がい」表記としています）

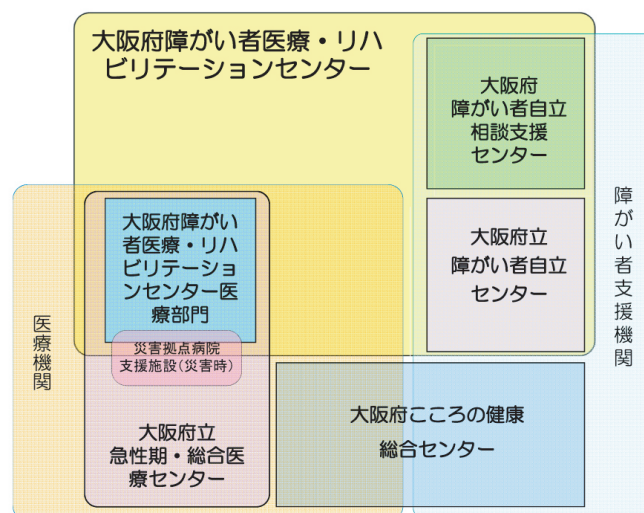


図. 大阪府障がい者医療・リハビリテーションセンターの位置付け



増田医院 増田 和人 先生

京都市の無床診療所でリハビリテーション科、整形外科、肛門科、外科の診療を行っています。京都市での日本リハビリテーション医学会の専門医としては第1号として、京都市身体障害リハビリテーションセンターのリハ部門を担当しました。その後暫く父の遺志を継いで肛門科を修行したためリハビリテーション科の開業はかなり遅れ、ようやく7年前にリハビリテーション科を開設しました。

病院リハとは異なり当初はかなり戸惑っていましたが、最近は慢性疼痛疾患に対するリハビリテーションを重点的に行っています。一般整形では慢性疼痛疾患は運動器リハビリテーションの中でもあまり重視されてはいませんが、実際は困っている方が多く、その対処が複雑なことで色々試行錯誤を重ねながら臨床を行っています。主としてトリガーポイントから来る筋筋膜性疼痛症候群(MPS)患者が主ですが、長い経過を持っておられる方が多い為に時間をかけて加療しています。成果は上がってきていると自負していますが、運動器リハビリテーションの期間制限は大きな壁でもあります。

また昨年の8月には訪問看護ステーションを誘致して理学療法士2名による訪問リハビリテーションが始まりました。さらに、今年の11月始めに当施設内に短時間型の通所介護施設を誘致しました。2時間くらいの機能訓練が中心の施設で活発に活動しています。今後、それらの施設と連携をとりながら地域リハビリテーションを少しずつ始めていきたいと思っています。

リハ専門医としての研究活動としては京都CBR(京都地域リハビリテーション研究会)の中心メンバーとして、たちあげ当時から会の運営に積極的に携わっています。



医療法人 平成記念病院 回復期リハビリテーション病棟 富田 恭治 先生

当院は、平成5年9月に180床の救急医療を中心とする急性期病院として開院しました。その後、療養病棟120床を増設して慢性期医療についても整備し、病床数300床の病院へと発展いたしました。平成18年4月、私が当院に整形外科医兼リハビリテーション専門医(副院長)として着任後、5月には日本リハビリテーション医学会研修施設認定を受け、同年6月には療養病棟の一部(60床)を回復期リハビリテーション病棟に区分変更を行って当院の回復期リハビリテーション病棟がスタートしました。さらに地域の需要に合わせて徐々に回復期リハビリ病棟を拡充し、平成21年7月には回復期リハビリテーション病棟が120床(2病棟)と県下最大のリハビリテーション施設となり、現在は一般病床180床、回復期リハビリテーション病床120床の準地域完結型医療施設として地域医療に貢献しています。近年、リハビリテーションは原則として出来る限り早期から開始し、短期間に集中的なリハビリテーションを実施することの有用性が謳われています。当院ではPT、

OT、STを合わせて80名以上のセラピストたちが急性期から回復期まで切れ目なく日曜日、祭日も変わらず年365日1人1日平均約6単位のリハビリテーションを施行しています。回復期リハビリテーション病棟入院患者さんは脳梗塞や脳内出血などの脳血管障害が40%、運動器障害の整形外科関係40%で残る20%が廃用症候群その他の疾患です。回復期リハビリテーション病棟への入院経路は当院の一般急性期病棟からが70%で約30%が地域の医療施設からの紹介患者さんです。大学病院と道路一つ隔てたロケーションにあることから紹介入院患者の約半数は医大付属病院からの紹介であるのが特徴です。



神戸学院大学総合リハビリテーション学部 村尾 浩 先生

【はじめに】大阪医科大学総合医学講座リハビリテーション(以下、リハ)医学教室から神戸学院大学総合リハ学部医療リハ学科理学療法学専攻に異動しましたので、この場をお借りして報告します。

【神戸学院大学の歴史】神戸学院大学は、明治45年創設の私立森女学校を前身とした歴史のある学校であり、戦後は女子に対する教育だけでなく、総合的な教育体制をとっています。私が所属する総合リハ学部は平成17年に開設された新しい学部であり、大学運営者や他学部から今後の動向を観察される立場にあります。

学部学科構成は法学部、経済学部、経営学部、薬学部、栄養学部、総合リハ学部からなる総合大学で学生数は約10,000人です。神戸学院大学は神戸市にポートアイランドキャンパス、長田キャンパス、有瀬キャンパスの3キャンパスを有しており(図1)、総合リハ学部は有瀬キャンパスに存在します。有瀬キャンパスでは、薬学部以外の学部が運営されており、大変活気のある教育の場です。

【神戸学院大学の現状と展望】神戸学院大学に来て感じることは、当たり前かもしれませんが臨床業務に追いつくことが無い分、

教員役割が多いことです。平成23年度の私の担当科目は、学部講義として整形外科、リハ医学、健康運動学、救急医学、健康管理学、臨床理学療法学演習（OSCEを含む）で、大学院講義として生体機能・病態解析学特論など7科目で、合わせて106回×90分＝9,540分（159時間）講義をします。大阪医科大学リハ医学教室でリハ医学を教えていたもので、授業はあまり苦にならないと予想していたのですが、年間100時間を越える授業をするとなると結構大変です。

平成23年に施行された第46回理学療法士国家試験の合格率は、全国平均、74.3%、神戸学院大学理学療法専攻学生は86.0%で、例年90%台後半の合格率でありましたので、大幅に合格率が下がりました。早速、国家試験対策を強化すべくカリキュラム改訂に取り組んでいます。また、4年生前期の臨床実習を途中で継続できなくなる学生が少なからず存在するため、当初予定されていなかったOSCEを取り入れました。

社会に貢献できる理学療法士を育成することが、リハ医療の発展に寄与するものと信じて頑張っていきますので、今後ともご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願いします。

神戸学院大学 3 キャンパスの存在場所

有瀬キャンパス 長田キャンパス ポートアイランドキャンパス



図1

施設紹介〈第11回〉

滋賀県立 小児保健医療センター リハビリテーション科

〒524-0022 滋賀県守山市守山5丁目7-30
TEL:077-582-6200(代)



滋賀県立小児保健医療センターは、JR琵琶湖線守山駅から西へ徒歩約20分の緑に囲まれたところにあります。当センターは我が国19番目の小児総合医療機関として1988年に開設されました。心身に障害を有する子どもを早期に発見し障害の治療や軽減を図るため各種の小児保健サービス機能と運動機能障害を主体とする専門医療分野を担当する施設として、滋賀県における小児保健医療分

野・リハビリテーションの中核的な役割を担っています。

当センターは前身が整肢園であった背景から脳性麻痺やてんかんを始めとする神経疾患患者が多数を占め、県内で最も多くの超重症、準超重症の障害児の診療をしている病院のひとつであり、日本小児神経学会小児神経科専門医研修施設、日本整形外科学会認定研修施設、日本リハビリテーション医学会

研修施設など多数の研修施設として認定されています。特にリハビリテーション科は診療科としては最大規模を誇る重要部門であり、神経疾患、関節疾患、先天異常などの多様な疾患を有する症例に対し、専門的な訓練を実施しています。また骨系統疾患による脚延長等で長期入院を要する学童は、隣接する守山養護学校に通いながら継続した治療・訓練を続けることも可能です。障害をもった児が家族とともに地域で暮らしていけるよう、今後とも地域の福祉・医療との連携を行い、リハビリの継続性、有効性を維持すべく邁進してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(医長 平島淑子)



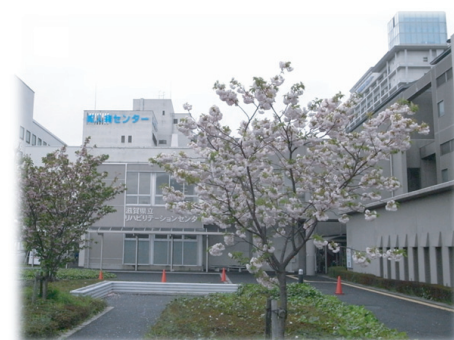
滋賀県立成人病センター リハビリテーション科 滋賀県立リハビリテーションセンター

〒524-8524 滋賀県守山市守山五丁目4番30号 TEL:077-582-5031(代)

滋賀県立成人病センターは1970年に開設された病院です。当院リハビリテーション科は、成人病センターのリハビリテーション科としての診療を行うと共に、2006年に開設された滋賀県立リハビリテーションセンターの医療部門としての機能を担っています。様々な疾患による障害に対して滋賀県の3次医療圏におけるリハビリテーション科として各診療科との協力体制のもとで行っています。日本リハビリテーション医学会の専門医制度研修施設であり、常勤医師は全員が日本リハビリテーション医学会または日本整形外科学会の専門医です。

施設基準は、脳血管(I)、運動器(I)、心血管(I)、がん、集団コミュニケーション療法、回復期リハビリテーション病棟を取得しており、当科は主治医として回復期リハビリテーション病棟(40床)を担当しており、急性期のリハ診療から病気に応じた対応を行っています。

対象となる疾患や障害が広範にわたる中で専門的な診療を進めていくために、県立リハビリテーションセンターと共同のチームを編成して活動を行う取り組みを行っています。2007年より高次脳機能、さらに2009年からは神経難病、がん、摂食嚥下、予防の現在6領



域について、診療、研究、研修会などの啓発活動など様々な活動をおこなっています。リハビリテーションセンターの開設から6年となりますが、社会参加の理念のもとに地域や関係諸機関と協力して、今後さらに充実するべく活動していきますので皆様方のご指導をお願いします。

(科長 川上寿一)